

研究・調査報告書

報告書番号	担当
300	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Association between alcohol intake amount and prevalence of metabolic syndrome in Korean rural male population. 田舎の韓国人男性におけるアルコール摂取量とメタボリックシンドローム罹患率の関係	
執筆者	
Lee MY, Kim MY, Kim SY, Kim JH, Kim BH, Shin JY, Shin YG, Yun JH, Ryu SY, Lee TY, Koh SB, Chung CH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Res Clin Pract. 2010 May;88(2):196-202.	
キーワード	
アルコール摂取, 栄養因子, メタボリックシンドローム, アディポネクチン	
要 旨	
目的: 中等度のアルコール摂取は、循環器疾患リスクと死亡率の減少に関係していることが知られている。しかし長期間のアルコール摂取が中心性肥満と循環器疾患の罹患率を上昇させるかもしれないという報告が少なされている。そこで本研究では、田舎の韓国人男性における飲酒量と栄養摂取量、メタボリックシンドロームの関係を検討した。	
方法: Korean Rural Genomic Cohort(KRGC) study のデータを用い、横断研究をおこなった。多重ロジスティック回帰分析を用いてアルコール摂取量(非飲酒, 0-16g/日, 16-40g/日, 40g以上/日)別にメタボリックシンドローム罹患のオッズ比を求めた。	
結果: 年齢、総摂取エネルギー量、喫煙、身体活動で調整したメタボリックシンドローム罹患の非飲酒者に対するオッズ比は、最もアルコール摂取量が多い第五・五分位で有意に高かった(オッズ比 1.33, 信頼区間 1.11-1.59)。またエネルギー摂取量 1700kcal 以上のオッズ比も同様に第五・五分位が有意に高かった。しかし、エネルギー摂取量 1700kcal 未満では有意な差はなかった。腹囲、血圧、血清中性脂肪の値は、アルコール摂取量が最も多い第五・五分位で非飲酒者と比べて有意に高かった。	
結論: 以上の結果より、多量飲酒者はメタボリックシンドロームに関連し、特にエネルギーの過剰摂取は、修正し得るメタボリックシンドロームの危険因子かもしれないことが示唆された。	